東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2006年8月4日

アッラーの導きと迷わす

親愛なるムスリムの皆様。よく知られていることですが、強制によって人に何かを信じさせたり、信じるのをやめさせたりすることはできません。信じると言うことは、心においておこなわれるものであることだからです。だから、人の心に侵入すること、脳をコントロールすることはできないのです。信仰においても、人に強制することは、信仰しているふりをしている人を生み出す以外の何ものも生み出しません。また強制すること、圧力をかけることは試練と言う意識とも相容れないものです。このテーマに関するいくつかのクルアーンの章句を見ていきましょう。

「宗教には強制があってはならない。」（雌牛章第２５６節）

「あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。」（不信心者たち章第６節）

「もし主の御心なら、地上の凡ての者は凡て信仰に入ったことであろう。あなたは人びとを、強いて信者にしようとするのか。」（ユーヌス章第９９節）「真理はあなたがたの主から来るのである。だから誰でも望みのままに信仰させ、また（望みのままに）拒否させなさい。」（洞窟章第２９節）

「あなたがたが好む通りに行いなさい。本当にかれは、あなたがたの行うことを見守られる。」（フッスィラ章第４０節）もしアッラーが、人々の全てが信仰を持つように望まれていたとすれば、人々には他の選択肢はなかったでしょう。皆、信仰する以外にはなかったでしょう。別の表現を用いるなら、この点において自由ではなかったでしょう。

親愛なるムスリムの皆様。アッラーが人々を自由にさせてくださっていることをクルアーンで確認したうえで、別の観点から理解する必要のあることがあります。それは、信仰から遠ざけられるのも、信仰へ導かれるのも全てアッラーであられる、ということです。

「本当にアッラーは、御望みの者を迷わせ、また御望みの者を導かれる。」（創造者章第８節）という意味の章句は複数あります。これらについて考えを進め、過ちを犯すこと、道から外れること、導かれることが何らかの法則や規則に基づいたものではないこと、アッラーが適当に人々を迷わされ、あるいは導かれるのだと考える人がいるかもしれません。ただし、アッラーが何の必要もないのに１人の人を迷わされると見なすことは、アッラーを残酷だと見なすことであり、そのようなことは考えることすら不可能です。クルアーンはアッラーが適当に人を迷わされたり導かれたりするのではない、ということを明白に示しています。

アッラーが導かれる人については、クルアーンにおいて要約すると次のようであるとされています。

・信仰する者。
・自らを変えようとする者。
・シャイターンから遠ざかる者。
・　アッラーに向かい、アッラーと結びついていようとする者。
・　善行に勤しむ者
・　貧しい人に施しをなす
・　言葉を聞いて、その中の最も良いところに従う者

アッラーが迷わさる人については、クルアーンにおいて要約すると次のようであるとされています。

・　信仰を拒否する者
・　来世を拒否する者
・　印を信じない者
・　不義を行なう者
・　偽信者たち
・　掟に背く者
・　心には病みが宿っているもの
・　罪深い者
・　理解しない者と考察しない者
・　来世より現世を優先する者
・　反逆者たち
・　クルアーンに目を瞑る者
・　アッラーを忘れた者
・　高慢で暴逆な者
・　うぬぼれているもの
・　残酷者たち
・　虚偽で恩を忘れる者
・　裏切り者と恩を忘れる者
・　無法者と懐疑者

親愛なるムスリムの皆様。ムスリムとして私達が信じていることは、全ての物事、全ての業を創造されたのはアッラーであられると言うことです。これは神の特性の欠かせない条件でもあります。だから、迷わされることも、導かれることも、これらを創造されたのはアッラーなのです。しかしそれらを望み、選択するのはしもべです。偉大なるアッラーが私達皆を真実へと導かれるしもべとして下さいますように。